

令和7年度第5回運営推進会議報告内容

議題

① 入居状況について

入居状況

令和8年1月1日時点の入居者数

男性3名 女性6名 合計9名

平均年齢85歳 男性 80歳 女性 87歳

平均介護度2.6 男性3.3 女性2.2

② ヒヤリハット、事故、苦情報告などについて

11月（前回推進会議以降） 事故報告1件

12月 事故報告2件

1月 事故報告2件 ヒヤリハット2件

11/30 2:28 T. H様 女性 86歳 事故報告

ベッド起上センサーが作動して訪室すると、上靴を履かずベッド前床に座っているところを発見しました。トイレに行こうとされベッドからずり落ちてしまったとの事でした。右臀部付近に痛みがあり、湿布を貼りました。

居室はリビングから一番遠い部屋の方で、センサーが作動してから駆けつけるとトイレに掛かっている事がよくあります。ベッドセンサーが作動してから可能な限り早く駆けつける事が必須となり、スタッフは意識して関わっておりますが、間に合わない事も多いのが現状となっています。

12/18 18:50 Y. H様 男性 91歳 事故報告

夕食を終え、食堂から居室に向かう途中、3号室前あたりで転倒してしまいました。後頭部に擦過傷出血ありガーゼ保護しました。転倒直後は意識不明瞭でしたが、徐々に意識ははっきりと戻り、ご家族様に状況報告。翌日整形外科、脳神経外科ともに受診し、異常が無い事が確認できました。

杖歩行の方で歩行が不安定になることがあり居室までの歩行介助を同行しなかったために転倒を防ぐことが出来ませんでした。

受診先 Dr. から車椅子使用の勧めもあり、リビング、居室間の移動は車椅子、居室内ベッドからトイレ間はスタッフ手引き誘導し歩行移動して様子を見ていく事としました。

12/30 23:18 Y. H様 男性 91歳 事故報告

ベッド起上センサー作動。大声で怒鳴り声が聞こえた為訪室すると、ベッドに

座り大声を出し興奮されておりました。「家に帰る」、「泥棒がいる」との訴えがあり、しばらく傾聴いたしましたが興奮おさまらず、気がつくや左手の甲に3～4cmの表皮剥離ができておりました。元々、両手の甲の皮膚が薄く、内出血を起こしておられましたが、左手でベッド柵をしっかりと握っていた事や腕時計をしていた事で皮膚を傷つけてしまったものと思われました。

保護シールを貼り止血ができました。

翌朝、ご家族に状況報告し、同日午後に様子を見に来て下さった際、今後の対応として、以下対応させていただく事としました。

- ① 両手の甲など皮膚が薄く剥離を起こさないよう、起きている時には常時手袋を使用。
- ② 腕時計は本人が心配されない限り使用しない。(剥離予防)
- ③ 腕時計の代わりに居室内に掛け時計を用意いただく。
- ④ 怪我をしてしまった際の処置道具について予め用意させていただく。

1/2 18:25 T. H様 女性 86歳 事故報告

夕食後、アシストカーに座り歯ブラシをしておられましたが居室より「痛い」と聞こえ訪室すると居室ドア付近にアシストカーからずり落ちている所を発見しました。ドアに後頭部をぶつけたような姿勢で座っておられ、後頭部に打撲による腫れがありました。体温、血圧などに異常は無く、嘔吐、頭痛等の訴え無し。意識レベル良好でその他の打撲痕などは見られませんでした。後頭部、クーリングをして経過観察をいたしました。

ご家族報告の際、アシストカーに座る事は危険ではないか？とのご指摘があり、居室洗面台前に椅子を用意いただく事となりました。

日頃よりアシストカーに座っての歯磨きを行っており、日常化していた事もあり、スタッフはアシストカーへの乗車が危険である事の意識が欠けていました。

1/6 13:00 T. H様 女性 86歳 ヒヤリハット

スタッフが本人居室前を確認するとT. H様が廊下に出してあったアシストカーに座っておられました。以後、同じことが起きないようにベッドと壁の間の隙間にアシストカーをしまう事としました。

1/9 6:03 H. K様 女性 94歳 ヒヤリハット

朝食声掛けの為訪室すると、箆笥前床に両足を前に真っすぐ伸ばした状態で座っておられました。服を変えようとして移動した際転んでしまったとの事でした。H. K様は両膝痛がありアシストカーを使用していますが、アシストカーは

窓際に置いてあり、使用している様子はありませんでした。これまで膝痛により転倒を繰り返され、移動の際はアシストカーを使用しスタッフが付き添うようにしておりますが、H. K 様はアシストカーを使用する事に意識が向かなく、フリーハンドや伝い歩きをされてしまう事が多くあります。居室内は伝い歩きで凡そ自立歩行されトイレにも掛かる事ができておりますが、あまり介助される事を好まない方の為、今後も可能な限り付かず離れずの距離を保ちながら転倒を防いでいく事としました。

1/13 23:05 M. H 様 女性 91 歳 事故報告

トイレに行かれてから 10 分以上経っても戻られた様子がない為訪室すると、着替えをされていました。「トイレの手摺に掴まったけど、膝をついちゃって、間に合わなかったんだよ」とのお話がありました。左膝に少し痛みがあるが赤み、腫れ無し。

翌日、本人に昨晚の膝つきについて、再度痛みの確認と今後の対応について本人意向を確認。

「左膝の痛みは随分落ち着いてきた。膝の痛みがある時は膝を伸ばす事ができなくなるが、今はそのようなことはないので大丈夫だと思う。」

「夜のトイレに不安が無いとも言えないが、今のところは大丈夫。職員さんがトイレの際に関わってくれと言ってくれているが、もう少し様子をみてもいいよ。」とのお話があり、今のところは本人の意向を踏まえ様子を見るが、定期的に夜のトイレについて付添いが必要かどうかを含めて、確認を行っていく事としました。今回の事については長女様に報告した際、長女様からも面会時に本人意向を確認いただく事となりました。